

平成27年8月11日(火)

老球の細道154

## 会津地区中学校サマーキャンプ雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

8月9日(日)会津地区の中学1年、2年生を対象にしたバスケットボール・サマーキャンプが実施された。午前男子100名、午後女子80名、午前、午後通じてコーチングスタッフ12名とアシスタントコーチとして田島高校生6名が参加した。午前中は過ごしやすい気温だったが、午後になって猛暑がぶり返し自分との熱い戦いの1日となった。

当地区のサマーキャンプは「ステーションドリル」の形式をとっている。8つのステーションを前半と後半に分けて、4グループに分かれ、それぞれのステーションで1つのファンダメンタルスキルを20分毎練習するものである。

ステーションドリルはアメリカのキャンプクリニックでよく行われている。アメリカの子ども達はシーズンが解禁になるまではチーム練習ができないので、夏休みにあちこちで開かれるキャンプクリニックに参加して、個人的にファンダメンタルや個人技の向上に努めている。会津地区でもそれを真似て今回で12年目になり、3つの意義を持つ。

一つは、中学生の新チームがスタートするこの夏休み、自らのファンダメンタルをチェックすることは大きな意義がある。ファンダメンタルの確立なくしてスキルとプレーの成長はありえない。将来の伸びしろを作るためには土台を広く、大きく、堅固なものに作り続けなければならない。

二つは、会津地区の中学生が一同に会して練習するという事は、地区全体で向上しようということである。自分だけ上手になっても真の向上はない。自分といつも一緒に試合をするライバルたちも向上することである。地区内でハイレベルの戦いを常に行えることは自分のチームのレベルアップに貢献できる。

三つは、普段は指導してもらえない色々なコーチに指導してもらうことによって、自分のプレーを多角的に見直すことができる。新しいヒントなどもつかめる。自分のチーム以外の多くの人たちとのコミュニケーションの場を得ることは、バスケットボールのプレーヤーとしてのみならず、人間的にも大きく成長するきっかけを与えてくれる。

男子、女子の終了時に講評をした。男子においては「基本の徹底」について話した。簡単なことを徹底することが基本の徹底である。徹底とは「オール・オア・ナッシング」、100%やるかまったくやらないかのどちらかである。神は細部に宿る。細かいポイントを100%徹底するところに活路が見いだされる。

女子についてはワンハンドシュートへの移行である。ファンダメンタルに男子、女子の違いはない。ミニも代表レベルでも同じ。なのにいまだに日本女子のシュート、会津地区女子のシュートはガラパゴス系ツーハンドシュート。会津地区女子からシュートの革命を起こしたいものである。女子のレベルアップはある意味で簡単。ダンク以外は男子と同じようにプレーできること。その一つがワンハンドシュートである。

最後に、1日中声をからして、自ら見本を見せながら熱く、タフに指導していただいたコーチングスタッフと田島高校バスケットボール部に感謝の意を表したい。今後はコーチングスタッフのみならず、日頃チームの指導に携わっている現場コーチの方々がたくさん参加して、バスケットボールのディスカッションの場となることを願ってやまない。